

## シルバーライフかなおか 2016 年度総括

### はじめに

今年度は管理者が代わり、入居者の方々にも不安な思いをさせた。今年に入り、顔を見てもらえる時間も増え、声を掛けられるようになった。入居者数は平均すると、44, 9 名と目標の 45 名に近づいたが、予算は赤字に終わった。2016 年度の退去者数は 9 名に対し入居者数は 6 名と厳しい状況は変わらない。毎年の総括にも挙げられていたが、入居者数を上げるだけでは黒字展開は難しく、新しい収入の確保が課題である。

#### (1) 「地域から圧倒的に選ばれる施設・事業所」を目指して

- ・入居者との話し合いを定期的に行い、運営にいかします。

今まで 3 か月に 1 度のペースで夕食の前に食堂で懇談会を行っていたが、聞き取れない方も多く、今回はテーブルごとにプリントを配り、3～4 名ずつ話をして回った。年度末の懇談会は通常どおり 2 階食堂で行う予定。

- ・食事内容を充実させます。

毎月 1～2 回の行事食は定着してきた。また新メニューと題して、毎月 1 回、岡山のデミカツ丼やホルモン焼うどん、温玉バラチャーシュー丼、豆乳うどん、手作りオムライスなど提供し好評である。

- ・食事・サ高住全般のアンケートを行い、事業所評価を行います。

2 月に職員についてと食事のアンケートを行った。厳しい意見もあったが、今後活かせるものにしていきたい。箸の先が太く使い勝手が悪いとか、職員の名前が分からないなどすぐにでも改善出来る事は、対応した。

#### (2) 「学び・考え・実践する」職員を育成し働き甲斐のある「本音で語れる職場づくり」をすすめます。

- ・各部署会議の持ち方を検討します。

現在、厨房、支援員と別々に会議を行っているが厨房の主任には支援員会議にも参加してもらい、部署ごとの情報を共有していく。

- ・相談援助技術カリスママネジメントの学習会どちらかに参加します。

東区における地域在宅医療・介護連携意見交換会に参加し、ケアマネ、薬剤師、作業療法士、栄養士、看護師など他職種の意見を聞くことができた。

#### (3) 介護保険の改悪に負けない「利用者の生活を守り、職員の暮らしを支える」事業所経営を確立するために

- ・部署会議・入居者との話し合いで経営報告を行います。

会議の中では報告し、自分たちで出来る節約に努めた。

- ・居室内電気代金・上下水道代金の定額徴収を継続します。上下水道については節水を心がけ適正な定額代金となるように見直しをします。

- ・ 正確な食数把握と食材の発注による無駄をなくす努力を続けます。残飯量の把握により一品の適量化・献立の見直しをします。

正確な食数把握の為、まず欠食届をパソコン入力し、厨房職員、支援員と時間を決め3度の確認、二人以上の目で見えて正確な数を出すことで、食数の誤差はほぼなくなった。

(4) 事業所が地域福祉の拠点となって「友の会」と「地域住民」との協力協同を実現します。

- ・ 喫茶でのイベント数を増やします。

イベント以前に、毎日喫茶を開ける事も出来ず、一部の入居者の方にしか喫茶の対応が出来なかった。地域の方には予約のみの対応に終わった。

- ・ コンサート・餅つきを行います。

コンサートは開催することは出来なかった。餅つきは友の会の協力もあり、40kgのもち米をつき、完売した。

- ・ 喫茶でのミニ展覧会を開催し、地域にチラシ配りを行います。

喫茶での活動は出来ていない。

(5) 利用者・職員・地域住民のいのちと安全を守るために施設・事業所の使命を自覚します。

- ・ 避難訓練を行います。

宿直者を中心に非常ベルの対応（火災時、誤作動時の対応）。火災時の避難場所の確認を行った。

- ・ 3階事務所を保管場所とし、備蓄品を増やしていきます。

検討はしているが、まだまだ揃ってはいない。

- ・ 災害時連絡網・具体的なマニュアル作りに取り組みます。

サ高住、事務局、デイサービス、かなおか全体の災害時連絡網を作成した。

(6) 民医連活動を通じて社会の動きや社会保障・福祉諸制度の動向にアンテナを高く揚げます

- ・ 民医連の研修会に参加します。

- ・ 福祉諸制度について、機会ある毎に入居者に伝える努力をします。

## シルバーライフかなおか 2017年度方針

### はじめに

昨年12月末で併設のヘルパーステーションかなおかがヘルパーステーションあかねと統合した。サ高住としての1つの強みが消えたことになるが、今まで以上に支援員が入居者、ご家族との関わりを密にし、困っている事、してもらいたい事など相談に応じていくことが必要になってくる。同一建物の減算から離れたヘルパーステーションあかねにも協力を求めなければならない。今現在は対象となる入居者はおられないが、排泄介助や移乗介助など介護が必要となる緊急な対応が発生した場合、日中1名体制の支援員では受けきれない。完全介護を謳ったサ高住もある中、シルバーライフかなおかとして、他のサービス付き高齢者向け住宅との差別化を考えることが、今後の入居状況にもかかわってくる。

#### (1) 「地域から圧倒的に選ばれる施設・事業所」をめざして

- ・より地域に近い存在となるためにも喫茶「都紀の郷」を週休1日とし毎日営業します。いつでも介護相談を受け付け、入居者の方はもちろん、地域の方の窓口になります。
- ・昨年同様、食事内容を充実させると共に、無駄を省き、食数アップを目指します。
- ・地域行事に参加します。

#### (2) 「学び・考え・実践する」職員を育成し働き甲斐のある「本音で語れる職場づくり」をすすめます。

- ・年に2回の面談を行います。
- ・自己啓発のための学習会に、職員全員が1度は参加します。
- ・職場会議に全員参加し、全員発言が出来るよう促します。

#### (3) 介護保険の改悪に負けない「利用者の生活を守り、職員の暮らしを支える」事業所経営を確立するために

- ・地域や居宅、病院に向けて空室状況を毎月報告します。
- ・引き続き正確な食数を把握し、残食のないよう努めます。

#### (4) 事業所が地域福祉の拠点となって「友の会」と「地域住民」との協力協同を実現します。

- ・入居者の方の楽しみを増やす為、月に1度ボランティアを招き演奏会やお茶の会など催事を計画します。
- ・入居者全員に友の会の入会をお願いします。
- ・友の会に協力をお願いします、餅つきを行います。

(5) 利用者・職員・地域住民のいのちと安全を守るために施設・事業所の使命を自覚します。

- ・サ高住での避難訓練と地域の避難訓練にも参加します。
- ・具体的な防災マニュアル作りに取り組みます。

(6) 民医連活動を通じて社会の動きや社会保障・福祉諸制度の動向にアンテナを高く揚げます

- ・民医連の研修会に参加します。
- ・介護相談と共に福祉諸制度について、機会ある毎に入居者に伝えます。

## デイサービスセンターかなおか2016年度総括

1. 平均利用者数は昨年度より1.5名増を達成できたが、収益は厳しい経営状態が続いた。時短利用や送迎減算も大きい、利用者の平均介護度が要介護度2を下回り、軽度利用者が多くなったことも要因に挙げられる。そこを埋める加算取得に向けての努力が足りなかったと反省する。  
岡山市インセンティブ事業では昨年引き続き指標を達成、本年度は上位事業所に選出された。日々の実践が評価されたことが職員の励みとなる年度の締めくくりができた。かなおからしい「きめ細かなケア」の実践に努めた一年でした。
2. 「地域から圧倒的に選ばれる施設・事業所」を目指して
  - ・新規利用者8名(サ高住入居者2名)、中止者8名(サ高住3名)であった。
  - ・利用登録者42名(サ高住14名) … 法人内居宅27名、法人外居宅7事業所15名。
  - ・利用者・家族への満足度調査を実施した。回収率90%で、ほぼ満足との評価を得たが、自由記入欄への記載は少なく、十分なニーズの把握とは至らなかった。記載されていた要望については実現できるように努めた。地域・居宅事業所へのアンケートは次年度の課題として残った。
  - ・職員の人員が足りないから「できない」ではなく、どうやったら「できるか」を考え、季節の行事は一日のプログラムで実施、その他「映画の日」「抹茶の会」「カラオケの会」「昼食外出」を月1回実施した。行事予定表を渡すようにしたことで来所や活動の楽しみに繋がっている。また、行事によってはサ高住入居者にも案内し、一緒に楽しみ交流できるようにした。
  - ・昼食のメニューをお品書きとして半紙に書く、抹茶の会でお茶を立てる、手先の器用さを活かして活動の下準備を手伝う等役割を持つことで生き生きとしている利用者が多い。その人ができる「役割作り」「出来ていることの継続」に着目して支援した。
  - ・訪問歯科協会の相談会を利用して利用者の口腔管理を行った。一人一人の状態を把握し、食事形態の見直し等を行った。治療を受けた利用者は食事量が増えるなど改善が見られている。次年度も続けていきたい。
  - ・広報活動では、7月に機関紙「かわら版」の発行ができた。当初は3ヶ月に1回の予定だったが、今では毎月発行できている。行事の部分は手書きで優しい雰囲気と職員の気持ちが伝わりやすいようにした。
  - ・居宅に対しては、受診時の情報提供に加え、利用者の状態に合わせた福祉用具の提案も積極的に働きかけた。また居宅と連携を取りながら、主治医に直接情報提供することも行った。その場で返事が返ってくるので、体調変化が起こりやすい利用者についても安心して対応できた。
  - ・東区包括センターより依頼があり、地域老人会の定例会に運動指導に出かけた。次年度も継続していきたい。
  - ・夏祭りでは地域の方がボランティアとして参加してくれた。初めて来所した方もいた。大きな行事ができない中でどのように知っていただき、関わっていくかが今後の課題である。
3. 「学び・考え・実践する」職員を育成し働き甲斐のある「本音で語れる職場づくり」をすすめます
  - ・個々が職場の目標書に沿って目標を揚げ取り組んだが、育成面談が全職員に実施できず、振り返りが十分にできなかった。

- ・法人内研修へは全職員が参加できている。一人年1回は外部研修への参加を促したが、パート職員については今年も達成できなかった。
- ・リスクマネジメントや感染症等事業所単位での学習会ができていない。年1回は確実にできるようにしていきたい。
- ・資格取得についてはキャリア段位アセッサー1名、認知症介護実践者研修1名が受講した。資格は取得したが、段位や加算の取得に至っていない。取得に向けての支援をしつつ、段位の取得や介護保険加算の取得が次年度の課題として残った。
- ・職場会議では報告を聞くだけの会議でなく活発な意見が出されている。個別状況の検討で意思統一が図れている。研修報告も口頭で行っている。毎月、会議時間が長くなっているので進め方の見直しが必要である。

#### 4. 介護保険制度の改悪に負けない「利用者の生活を守り、職員の暮らしを支える」事業所経営を確立する為に

- ・毎月の職場会議では収支報告を行い、全職員が現状を把握できるようにした。自分の事業所だけでなく、法人全体の状況を知ることができている。
- ・5月末にて看護師1名が退職。後任がなかなか決まらず、派遣職員で対応したが、9月よりパート職員として採用した。経験年数が浅い為急変対応の難しい時もあるが頑張っている。
- ・時短職員1名が2月より通常勤務に戻った。
- ・利用者増により振替や追加利用に対応できないことが続いた。経営状況も考え、4月から利用定員23名を検討した。
- ・12月末でヘルパーステーションがあかねに統合した。今まで同一建物内で連携もとりやすかったが、統合により連携の質が落ちないようにしていく必要がある。

#### 5. 事業所が福祉の拠点となって「友の会」と「地域住民」との協力協同を実現します

- ・友の会の強化月間では、パート職員も含め全員が地域訪問に出かけた。訪問時不在が多く、訪問時間の検討が必要と感じた。
- ・かなおかブロックも3年目を迎え、行事や財政活動も少しずつ定着しているが、地域への広がりはまだ十分とはいえない。地域行事(夏まつり等)への積極的参加を目指したい。

#### 6. 利用者・職員・地域住民のいのちと安全を守る為に施設・事業所の使命を自覚します

- ・11月に津波を想定した防災訓練を実施した。避難するだけでなくその後の家族への連絡等不備な点が多く見つかった。防災マニュアルの早急な整備が課題である。

#### 7. 民医連活動を通じて社会の動きや社会保障・福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます

- ・民医連主催の研修に1名、平和ゼミナールに1名参加した。平和ゼミナール参加者は1年を通して学ぶことで他事業所との交流も生まれ、有意義であったと振り返っている。
- ・「いつでも元気」はホール内に置き、利用者・職員で読んでいる。

## デイサービスセンターかなおか2017年度方針

1. 4月から利用定員を23名にする。岡山市の総合事業も始まるが、事業所としては現行の要支援者の受け入れで対応していく。きめ細かい支援で利用者の安定した利用確保に努め、かなおか全体の安定した経営を目指したい。
2. 「地域から圧倒的に選ばれる施設・事業所」を目指して
  - (1) 利用者・家族に年1回満足度調査を行い、ケアの充実を図ります。  
地域・居宅に対してアンケート調査を行い、求められているデイサービス像を把握し実践に移します。
  - (2) 地域の老人会やサロンとの交流を図ります。
  - (3) ホームページの活用、機関紙「かわら版」の発行で広報活動を行います。
3. 「学び・考え・実践する」職員を育成し働き甲斐のある「本音で語れる職場作り」をすすめます。
  - (1) 職員1人1人が自分の目標を持ち、全職員で共有しながら達成を目指します。
  - (2) 年2回の育成面談を必ず行います。
  - (3) キャリア段位（アセッサー1名、段位取得2名）、認知症介護実践者研修1名、インセンティブ事業で指標達成、上位事業所を目指します。
  - (4) 各自が資格取得に向けて積極的に取り組むと共に、事業所としてそれを支援していきます。
4. 介護保険制度の改悪に負けない「利用者の生活を守り、職員の暮らしを支える」事業所経営を確立するために
  - (1) 居宅訪問を行い、新規居宅事業所からの利用者確保に努めます。
  - (2) 職場会議で経営報告を行い、全職員が把握できるようにします。
  - (3) 介護保険制度についての学習会を行い、全職員が理解できるようにします。
5. 事業所が地域福祉の拠点となって「友の会」と「地域住民」との協力協同を実現します
  - (1) 友の会活動に全職員1回は参加し、理解を深めます。
  - (2) 地域の活動や行事に参加します。また、ボランティアを受け入れます。
  - (3) 医療生協・地域老人会との連携に向けての関係作りに努めます。
6. 利用者・職員・地域住民のいのちと安全を守るための施設・事業所の使命
  - (1) 防災対策マニュアルを作成し、避難訓練を実施します。
  - (2) AEDや消火器操作の講習会を行います。
7. 民医連活動を通じて社会の動きや社会保障・福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます
  - (1) 民医連主催の研修会や行事に参加し、内容理解を深めます。